

平成24年行政事業レビューシート (文部科学省)

| | | | | | | | | |
|---|--|--|-------------------|--|---|--------------|----------------|--|
| 事業名 | 独立行政法人海洋研究開発機構運営費交付金に必要な経費 | | 担当部署 | 研究開発局 | | 作成責任者 | 海洋地球課長 井上 諭一 | |
| 事業開始・終了(予定)年度 | 平成16年度～ | | 担当課室 | 海洋地球課 | | | | |
| 会計区分 | 一般会計 | | 施策名 | X-7 海洋分野の研究開発の推進 | | | | |
| 根拠法令(具体的な条項も記載) | 独立行政法人海洋研究開発機構法第17条 | | 関係する計画、通知等 | 海洋基本計画(平成20年3月 閣議決定)等 | | | | |
| 事業の目的(目指す姿を簡潔に。3行程度以内) | 平和と福祉の理念に基づき、海洋に関する基盤的研究開発、海洋に関する学術研究に関する協力等の業務を総合的に行うことにより、海洋科学技術の水準の向上を図るとともに、学術研究の発展に資することを目的とする。 | | | | | | | |
| 事業概要(5行程度以内。別添可) | 上記目的を達成するために、①「地球環境変動研究」、②「地球内部ダイナミクス研究」、③「海洋・極限環境生物圏研究」及び④「海洋に関する基盤技術開発」の4つの重点研究開発を推進するとともに、研究船や「地球シミュレータ」等研究施設及び設備を科学技術に関する研究開発または学術研究を行う者の利用に供する。 | | | | | | | |
| 実施方法 | <input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託・請負 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input checked="" type="checkbox"/> 交付 <input type="checkbox"/> 貸付 <input type="checkbox"/> その他 | | | | | | | |
| 予算額・執行額(単位:百万円) | 予算の状況 | 当初予算 | 21年度 | 22年度 | 23年度 | 24年度 | 25年度要求 | |
| | | 補正予算 | 0 | 0 | 0 | 0 | | |
| | | 繰越し等 | 0 | 0 | 0 | 0 | | |
| | | 計 | 38,560 | 36,337 | 36,028 | 35,114 | 36,580 | |
| | 執行額 | 38,560 | 36,337 | 36,028 | | | | |
| | 執行率(%) | 100.0% | 100.0% | 100.0% | | | | |
| 成果目標及び成果実績(アウトカム) | 成果指標 | | 単位 | 21年度 | 22年度 | 23年度 | 目標値(年度) | |
| | 海洋に関する基盤的研究開発、海洋に関する学術研究に関する協力等の業務を総合的に行うことにより、海洋分野の科学技術の水準の向上と学術研究の発展に資することを目標とする。 この観点から、独立行政法人評価委員会が行った評価結果は右記のとおり。 (海洋研究開発機構の行う事業は中期計画及び年度計画により定性的、定量的な目標を定めており、毎年度、独立行政法人評価委員会による達成度の評価を受けているため、これをもって成果実績とする。) | | 成果実績 | — | A | A | (未定) | |
| | | | 達成度 | % | ※成果実績として、独立行政法人評価委員会が行った評価のうち、「1. 国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置」に対する評価結果を用いることとする。 | | | |
| 活動指標及び活動実績(アウトプット) | 活動指標 | | 単位 | 21年度 | 22年度 | 23年度 | 24年度活動見込 | |
| | ○地球環境変動研究 ・地球環境変動の解明のための海洋観測等実施実績 ・地球環境予測研究の実施実績 | | 活動実績(当初見込み) | <ul style="list-style-type: none"> ・船舶による観測航海、漂流ブイや係留系による観測等を実施し、地球環境変動に関する研究を行い、GEOS等国際計画に貢献している。(Argoフロート展開数: H21:50基、H22:58基、H23:66基/トラインブイ: 15基を維持(H21~23)) ・IPCC第5次評価報告書に向けた予測を行うための研究を実施。また、エルニーニョ現象等、地球全体の気候変動に影響を及ぼす熱帯域の現象について予測に成功するなど、予測モデル構築、検証のための数値実験を継続的に実施。 ・東日本大震災への対応として、「海域モニタリング行動計画」への協力、放射性物質拡散シミュレーション等を実施した。 | | | | |
| | ○地球内部ダイナミクス研究 ・地球内部ダイナミクス研究の実施実績 | | | <ul style="list-style-type: none"> ・地球表層から中心核に至る固体地球の諸現象についての研究を行い、地震・火山活動の原因、島弧・大陸地殻の進化、地球内部の挙動と地球環境変遷の相関性等についての知見を蓄積してきた。 ・東日本大震災への対応として、東北地方沖海部の海底地形および海底下構造探査等を行い、地震時の海底変動を解明する等の成果を挙げた。 | | | | |
| | ○海洋・極限環境生物圏研究 ・海洋・極限環境生物圏研究の実施実績 | | | <ul style="list-style-type: none"> ・主に深海や海底下といった極限環境に棲む生物について、その多様性や生態等の研究を行い、生物多様性研究、有用物質の探査等に関する知見を蓄積してきた。 ・深海・地殻内の微生物、深海底等から得られた微生物等を10,500株保管し(H23年3月末現在)、生物資源としての調査研究を進めている。 ・東日本大震災への対応として、震源域付近の海底にて潜水調査船による調査を行い、今回の地震によってできた海底の亀裂や海底変動に伴い発生した微生物群集の異変を確認した。 | | | | |
| | ○海洋に関する基盤技術開発 ・先進的の海洋技術研究開発、次世代型深海探査技術の開発の実施実績 ・深海底ライザー掘削技術の開発の実施実績 ・総合海底観測ネットワークシステム開発の実施実績 ・シミュレーション研究開発の実施実績 | | | <ul style="list-style-type: none"> ・長距離音響通信技術、高強度耐圧容器等の先進的要素技術や、次世代型巡航探査機及び大深度有機能無人探査機に用いるための各種技術を開発した。 ・大深度掘削のための12,000m級ドリルパイプや、強潮流化でライザー掘削を行うためのライザー挙動モニタリングシステム、極限環境保持生物採取技術等を開発した。 ・長期孔内観測に向けた技術開発を行い、平成22年度に設置に成功した。 ・次期地震津波観測監視ネットワークに向けて、送電方式、高耐圧化等の要素技術等の開発を行った。 ・予測研究に用いる計算モデルの高速度、高精度化に資する研究開発を行った。また、大規模シミュレーション結果を社会へわかりやすく発信するプロジェクト「EXTRAWING」を立ち上げるなど成果の発信に関する開発を行った。 | | | | |
| | ○統合国際深海掘削計画(ODP)の総合的な推進 ・地球深部探査船「ちきゅう」の運用実績 | | | <ul style="list-style-type: none"> ・地球深部探査船「ちきゅう」の運用実績 H21: 南海トラフ地震発生帯掘削計画の2回の航海を実施。科学掘削史上初のライザー掘削に成功した他、海溝型巨大地震の原因解明の鍵をにぎる巨大分岐断層の掘削、試料の採取等を行った。 H22: 南海トラフ地震発生帯掘削計画の3回の航海を実施。長期孔内観測装置の設置に成功する等の成果を挙げた。また、沖縄の熱水域での掘削を実施し、海底下の熱水の滞留を発見した他、黒鉱を含む試料の採取等、熱水鉱床の成因解明に繋がる成果を得た。 H23: スリランカ沖での海外資源掘削とJOGMECの国内メタンハイドレートの事前調査を受託することで効率的な運用を図った。 | | | | |
| ○科学技術に関する研究開発または学術研究を行う者等への施設・設備の供用 ・船舶の供用実績 ・深海探査システムの供用実績 ・「地球シミュレータ」の供用実績 | | <ul style="list-style-type: none"> ・船舶7船の運航日数 H21:1,895日、H22:1,963日、H23:1,861日 ・「しんかい6500」「ハバード/ルフィン」かいこ7000 II」の潜航回数 H21: 225回、H22: 256回、H23: 191回 ・「地球シミュレータ」の使用ノード状況(計画停止を除く) H20: 約90%、H21: 80%以上、H22: 約91%、H23: 約90%以上 | | | | | | |
| 単位当たりコスト | (円/) | | 算出根拠 | <ul style="list-style-type: none"> ・実施する全ての事業について、コスト削減、業務効率化等の観点から、過年度の費用実費なども踏まえつつ、横断的に業務計画案の確認を行うなど、効率的な事業の実施に努力している。 ・また、調達にあたっては、これまでの調達実績をデータベース化するとともに他機関における調達実績も活用した調達コストの削減、外部有識者による契約監視委員会による透明性の確保等により、調達コストの妥当性を確保する仕組みを構築している。 ・これらにより、効率的な予算執行、コスト削減を図った上で成果の創出に努めている。 | | | | |

| 平成24・25年度 予算内訳 | 費目 | 24年度当初予算 | 25年度要求 | 主な増減理由 | |
|-------------------|----------------------|-----------|-----------|--------|--------------------------------------|
| | 独立行政法人海洋研究開発機構運営費交付金 | 35,114百万円 | 36,580百万円 | | 日本再生戦略に関する「特別重点要求」(グリーン分野): 2,163百万円 |
| | | | | | |
| | 計 | 35,114百万円 | 36,580百万円 | | |

事業所管部局による点検

| | 評価 | 項目 | 評価に関する説明 |
|-------------|----|--|--|
| 目的・予算の状況 | ○ | 広く国民のニーズがあり、優先度が高い事業であるか。 | 海洋基本法において、国は海洋に関する施策を総合的に実施することとされており、海洋に関する科学的知見の充実についても、その目的のひとつとされている。本事業は海洋に関する基礎的な研究開発を進めるにあたって必要なものであり、広く国民のニーズがありかつ国が実施すべきである。 |
| | ○ | 国が実施すべき事業であるか。地方自治体、民間等に委ねるべき事業となっていないか。 | |
| | - | 利用率が大きい場合は、その理由を把握しているか。 | |
| 資金の流れ、費目・使途 | ○ | 支出先の選定は妥当か。競争性が確保されているか。 | ・平成22年4月に「随意契約等の見直し計画」を策定し、契約の競争性、公平性、透明性の確保に努めている。 ・地球深部探査船「ちきゅう」の運航については、海外企業や独立行政法人石油天然ガス・金属鉱物資源機構からの受託事業を実施し、自己収入を拡大させるなどコスト削減に努めている。 |
| | - | 単位あたりコストの削減に努めているか。その水準は妥当か。 | |
| | ○ | 受益者との負担関係は妥当であるか。 | |
| | ○ | 資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。 | |
| | ○ | 費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。 | |
| 活動実績、成果実績 | ○ | 他の手段と比較して実効性の高い手段となっているか。 | 中期計画及び年度計画において目標を設定し、達成度については独立行政法人評価委員会による評価を毎年度受けており、着実に成果をあげている。 |
| | ○ | 適切な成果目標を立て、その達成度は着実に向上しているか。 | |
| | ○ | 活動実績は見込みに見合ったものであるか。 | |
| | - | 類似の事業があるか。その場合、他部局・他府省等と適切な役割分担となっているか。 ※類似事業名とその所管部局・府省名 | |
| | ○ | 整備された施設や成果物は十分に活用されているか。 | |

点検結果

平成23年度の行政事業レビューの指摘を踏まえ、以下の対応を行った。
 ・地球深部探査船「ちきゅう」については、海外企業からの受託としてスリランカ沖での資源掘削を実施し、また、独立行政法人石油天然ガス・金属鉱物資源機構からの受託で渥美半島沖でのメタンハイドレート産出試験に向けた事前掘削作業を実施する等、自己収入の拡大に努めるとともに、掘削技術の蓄積向上に努めた。
 ・東京大学海洋研究所より移管された学術研究船のうち、淡青丸については、独法整理合理化計画に基づき、運航業務の外部委託化を計画的に進め、平成23年度より外部委託とした。
 ・「随意契約等見直し計画」に基づいて機構職員向けに一般競争入札の採用に関する説明会を開催し周知徹底を図ることで、機構の契約案件全体に占める競争性のある契約の割合を大幅に増加させた。随意契約については担当課内の検討チーム、契約審査委員会および契約監視委員会によって点検を実施する等の取り組みにより、一層の契約の競争性、公平性、透明性の確保、効率化を図った。さらに、調達コスト削減のために外部有識者からなる「調達コスト検討会」を設置し、コスト削減に向けた提案を受けた。その中から、平成23年度においては研究開発8法人による研究納入実績データベースの運用開始や調達情報メールマガジンの配信開始による応札者の拡大、地方拠点における入札会の同時実施による入札参加の機会向上等に取り組んだ。

予算監視・効率化チームの所見

一部縮減

1. 事業評価の観点：この事業は、海洋に関する基盤的研究開発、海洋に関する学術研究に関する協力等に取り組む海洋研究開発機構の運営に必要な運営費交付金を支出するものである。
 2. 所見：平成23年度レビューの指摘等を踏まえ、地球深部探査船「ちきゅう」については、海外企業からの受託としてスリランカ沖での資源掘削を実施する等、自己収入の拡大を図るなど一定の見直しを図ったことは評価するものの、引き続き、競争参加条件等のより一層の見直しを図るなど、契約の競争性、公平性、透明性の確保等により、事業の効果的・効率的な実施を目指し、コスト縮減等に努めるべきである。

上記の予算監視・効率化チームの所見を踏まえた改善点(概算要求における反映状況等)

縮減

契約の適正化については、「随意契約等見直し計画」に基づいて機構職員向けに一般競争入札の採用に関する説明会を開催し周知徹底を図ることで、機構の契約案件全体に占める競争性のある契約の割合を大幅に増加させた。また、外部有識者からなる「調達コスト検討会」を設置し、コスト削減に向けた提案を受け、研究開発8法人による研究納入実績データベースの運用開始や調達情報メールマガジンの配信開始による応札者の拡大、地方拠点における入札会の同時実施による入札参加の機会向上等に取り組んでいる。また、一般管理費などの更なる効率化を図ることで、概算要求に▲379.5百万円を反映させた。引き続き事業の効率化と契約の適正化に向けた取組を実施していく。

補記(過去に事業仕分け・提言型政策仕分け・公開プロセス等の対象となっている場合はその結果も記載)

関係する計画、通知等：
 海洋基本計画(平成20年3月 閣議決定) <http://www.kantei.go.jp/jp/singi/kaiyou/kihonkeikaku/080318kihonkeikaku.pdf>

| 関連する過去のレビューシートの事業番号 | | | |
|---------------------|------|---------------|------|
| 平成22年行政事業レビュー | 0320 | 平成23年行政事業レビュー | 0301 |

※平成23年度実績を記入

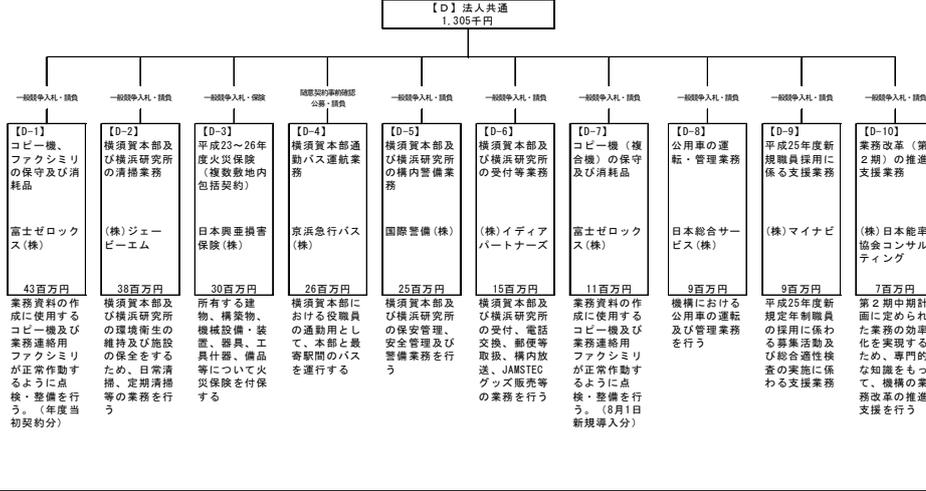
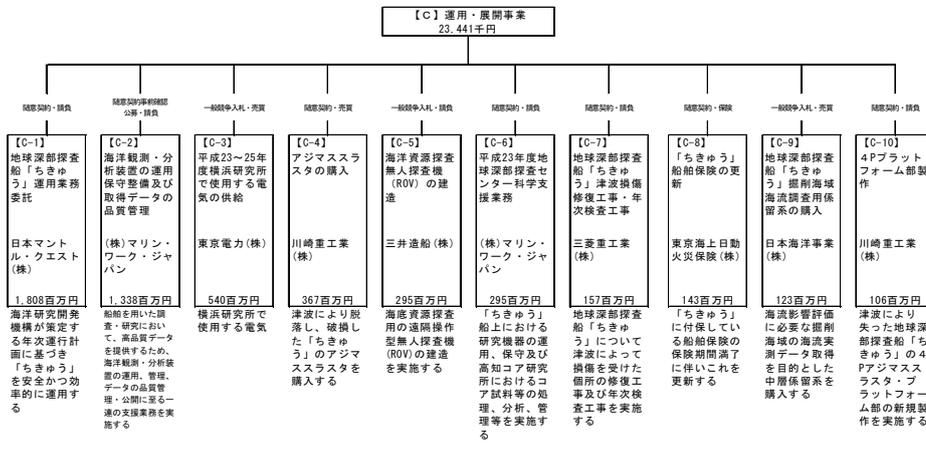
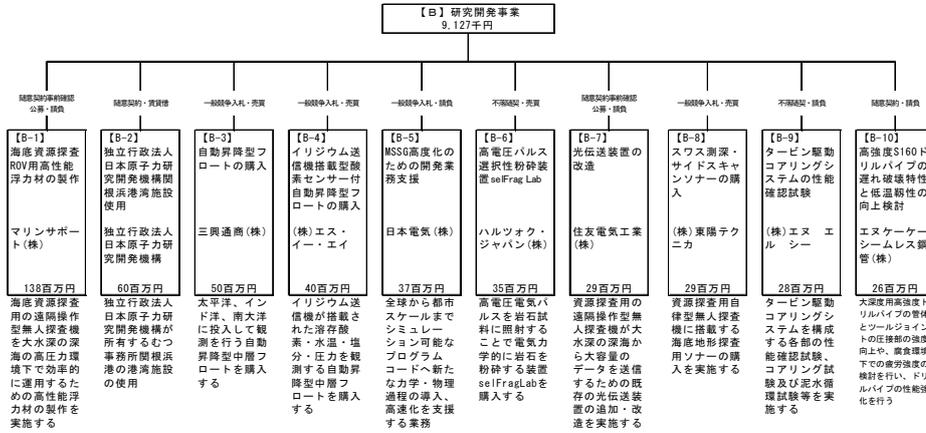
文部科学省
36,028百万円
独立行政法人海洋研究開発機構に対し、その業務の財源に充てるために必要な金額を交付

交付
【A】独立行政法人海洋研究開発機構
33,872百万円（運営費交付金部門）
（※自己収入財源による支出を含む）

【B】研究開発事業 9,127千円
プロジェクト研究、基礎研究等機構が行う研究開発

【C】運用・展開事業 23,441百万円
船舶等の運用、成果普及等、機構の主要な事業で「研究開発事業」以外のもの

【D】法人共通 1,305百万円
一般管理部門に係る費用及び人件費



資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する) (単位：百万円)

| A.(独)海洋研究開発機構 | | | E. | | |
|-----------------|-------------------------------|--------------|----|-----|--------------|
| 費目 | 使 途 | 金 額 (百万円) | 費目 | 使 途 | 金 額 (百万円) |
| 事業費 (物件費) | 船舶等運航委託、海洋観測等支援業務、光熱水料 | 30,019 | | | |
| 事業費 (人件費) | 事業系人件費 | 2,549 | | | |
| 一般管理費 (人件費) | 管理系人件費 | 474 | | | |
| 一般管理費 (物件費) | 構内清掃、構内警備、通勤バス運行業務等 | 416 | | | |
| 一般管理費 (公租公課) | 公租公課 | 415 | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| 計 | | 33,873 | 計 | | 0 |
| B.研究開発事業 | | | F. | | |
| 費目 | 使 途 | 金 額 (百万円) | 費目 | 使 途 | 金 額 (百万円) |
| 事業費 (物件費) | 研究用資機材の購入・開発・製作、港湾施設使用料、光熱水料等 | 8,062 | | | |
| 事業費 (人件費) | 事業系人件費 | 1,065 | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| 計 | | 9,127 | 計 | | 0 |
| C.運用・展開事業 | | | G. | | |
| 費目 | 使 途 | 金 額 (百万円) | 費目 | 使 途 | 金 額 (百万円) |
| 事業費 (物件費) | 船舶等運航委託、海洋観測等支援業務、光熱水料 | 21,956 | | | |
| 事業費 (人件費) | 事業系人件費 | 1,484 | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| 計 | | 23,440 | 計 | | 0 |
| D.法人共通 | | | H. | | |
| 費目 | 使 途 | 金 額 (百万円) | 費目 | 使 途 | 金 額 (百万円) |
| 一般管理費 (人件費) | 管理系人件費 | 474 | | | |
| 一般管理費 (物件費) | 事務機器の保守、構内清掃、通勤バス運行業務、構内警備等 | 416 | | | |
| 一般管理費 (公租公課) | 公租公課 | 415 | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| 計 | | 1,305 | 計 | | 0 |

費目・使途
 (「資金の流れ」
 においてブロック
 ごとに最大の
 金額が支出され
 ている者につい
 て記載する。費
 目と使途の双方
 で実情が分かる
 ように記載)

費目・使途
 (「資金の流れ」
 においてブロック
 ごとに最大の
 金額が支出され
 ている者につい
 て記載する。費
 目と使途の双方
 で実情が分かる
 ように記載)

| B-1. マリンサポート(株) | | | C-1. 日本マントル・クエスト(株) | | |
|------------------------|--------------------------------|-------------|----------------------|------------------------------|-------------|
| 費目 | 使途 | 金額 (百万円) | 費目 | 使途 | 金額 (百万円) |
| 製造 | 海底資源探査ROV用高性能浮力材の製作 | 138 | 役務 | 地球深部探査船「ちきゅう」運用業務委託 | 1,808 |
| 計 | | 138 | 計 | | 1,808 |
| B-2. (独)日本原子力研究開発機構 | | | C-2. (株)マリン・ワーク・ジャパン | | |
| 費目 | 使途 | 金額 (百万円) | 費目 | 使途 | 金額 (百万円) |
| 賃貸借 | 独立行政法人日本原子力研究開発機構関係根浜港の港湾施設使用 | 60 | 役務 | 海洋観測・分析装置の運用保守整備及び取得データの品質管理 | 1,338 |
| 計 | | 60 | 計 | | 1,338 |
| B-3. 三興通商(株) | | | C-3. 東京電力(株) | | |
| 費目 | 使途 | 金額 (百万円) | 費目 | 使途 | 金額 (百万円) |
| 物品調達 | 自動昇降型中層フロートの購入 | 50 | 物品調達 | 平成23～25年度横浜研究所で使用する電気の供給 | 540 |
| 計 | | 50 | 計 | | 540 |
| B-4. (株)エス・イー・エイ | | | C-4. 川崎重工業(株) | | |
| 費目 | 使途 | 金額 (百万円) | 費目 | 使途 | 金額 (百万円) |
| 物品調達 | イリジウム送信機搭載型酸素センサー付自動昇降型フロートの購入 | 40 | 物品調達 | アジマススラストの購入 | 367 |
| 計 | | 40 | 計 | | 367 |
| B-5. 日本電気(株) | | | C-5. 三井造船(株) | | |
| 費目 | 使途 | 金額 (百万円) | 費目 | 使途 | 金額 (百万円) |
| 役務 | MSSG高度化のための開発業務支援 | 37 | 製造 | 海洋資源探査無人探査機(ROV)の建造 | 295 |
| 計 | | 37 | 計 | | 295 |
| B-6. ハルツォク・ジャパン(株) | | | C-6. (株)マリン・ワーク・ジャパン | | |
| 費目 | 使途 | 金額 (百万円) | 費目 | 使途 | 金額 (百万円) |
| 物品調達 | 高電圧パルス選択性粉砕装置selFrag Lab | 35 | 役務 | 平成23年度地球深部探査センター科学支援業務 | 295 |
| 計 | | 35 | 計 | | 295 |
| B-7. 住友電気工業(株) | | | C-7. 三菱重工業(株) | | |
| 費目 | 使途 | 金額 (百万円) | 費目 | 使途 | 金額 (百万円) |
| 製造 | 光伝送装置の改造 | 29 | 役務 | 地球深部探査船「ちきゅう」津波損傷修復工事・年次検査工事 | 157 |
| 計 | | 29 | 計 | | 157 |
| B-8. (株)東陽テクニカ | | | C-8. 東京海上日動火災保険(株) | | |
| 費目 | 使途 | 金額 (百万円) | 費目 | 使途 | 金額 (百万円) |
| 物品調達 | スワス測深・サイドスキャンソナーの購入 | 29 | 保険 | 「ちきゅう」船舶保険の更新 | 143 |
| 計 | | 29 | 計 | | 143 |
| B-9. (株)エヌエルシー | | | C-9. 日本海洋事業(株) | | |
| 費目 | 使途 | 金額 (百万円) | 費目 | 使途 | 金額 (百万円) |
| 役務 | タービン駆動コアリングシステムの性能確認試験 | 28 | 物品調達 | 地球深部探査船「ちきゅう」掘削海域海流調査用係留系の購入 | 123 |
| 計 | | 28 | 計 | | 123 |
| B-10. エヌケーケーシームレス鋼管(株) | | | C-10. 川崎重工業(株) | | |
| 費目 | 使途 | 金額 (百万円) | 費目 | 使途 | 金額 (百万円) |
| 役務 | 高強度S160ドリルパイプの遅れ破壊特性と低温靱性の向上検討 | 26 | 製造 | 4Pプラットフォーム部製作 | 106 |
| 計 | | 26 | 計 | | 106 |

費目・使途
 (「資金の流れ」
 においてブロック
 ごとに最大の
 金額が支出され
 ている者につい
 て記載する。費
 目と使途の双方
 で実情が分かる
 ように記載)

| D-1. 富士ゼロックス(株) | | | D-1. 富士ゼロックス(株) | | |
|-------------------------|----------------------------------|-------------|-------------------------|----|-------------|
| 費目 | 使途 | 金額 (百万円) | 費目 | 使途 | 金額 (百万円) |
| 役務 | コピー機、ファクシミリ の保守及び消耗品 | 43 | | | |
| 計 | | 43 | 計 | | 0 |
| D-2. (株)ジェービーエム | | | D-2. (株)ジェービーエム | | |
| 費目 | 使途 | 金額 (百万円) | 費目 | 使途 | 金額 (百万円) |
| 役務 | 横須賀本部及び横浜 研究所の清掃業務 | 38 | | | |
| 計 | | 38 | 計 | | 0 |
| D-3. 日本興亜損害保険(株) | | | D-3. 日本興亜損害保険(株) | | |
| 費目 | 使途 | 金額 (百万円) | 費目 | 使途 | 金額 (百万円) |
| 保険 | 平成23～26年度火災 保険(複数敷地内 包括契約) | 30 | | | |
| 計 | | 30 | 計 | | 0 |
| D-4. 京浜急行バス(株) | | | D-4. 京浜急行バス(株) | | |
| 費目 | 使途 | 金額 (百万円) | 費目 | 使途 | 金額 (百万円) |
| 役務 | 横須賀本部通勤バス 運航業務 | 26 | | | |
| 計 | | 26 | 計 | | 0 |
| D-5. 国際警備(株) | | | D-5. 国際警備(株) | | |
| 費目 | 使途 | 金額 (百万円) | 費目 | 使途 | 金額 (百万円) |
| 役務 | 横須賀本部及び横浜 研究所の構内警備 業務 | 25 | | | |
| 計 | | 25 | 計 | | 0 |
| D-6. (株)イデアパートナーズ | | | D-6. (株)イデアパートナーズ | | |
| 費目 | 使途 | 金額 (百万円) | 費目 | 使途 | 金額 (百万円) |
| 役務 | 横須賀本部及び横浜 研究所の受付等 業務 | 15 | | | |
| 計 | | 15 | 計 | | 0 |
| D-7. 富士ゼロックス(株) | | | D-7. 富士ゼロックス(株) | | |
| 費目 | 使途 | 金額 (百万円) | 費目 | 使途 | 金額 (百万円) |
| 役務 | コピー機(複合機)の 保守及び消耗品 | 11 | | | |
| 計 | | 11 | 計 | | 0 |
| D-8. 日本総合サービス(株) | | | D-8. 日本総合サービス(株) | | |
| 費目 | 使途 | 金額 (百万円) | 費目 | 使途 | 金額 (百万円) |
| 役務 | 公用車の運転・管理 業務 | 9 | | | |
| 計 | | 9 | 計 | | 0 |
| D-9. (株)マイナビ | | | D-9. (株)マイナビ | | |
| 費目 | 使途 | 金額 (百万円) | 費目 | 使途 | 金額 (百万円) |
| 役務 | 平成25年度新規職員 採用に係る支援 業務 | 9 | | | |
| 計 | | 9 | 計 | | 0 |
| D-10. (株)日本能率協会コンサルティング | | | D-10. (株)日本能率協会コンサルティング | | |
| 費目 | 使途 | 金額 (百万円) | 費目 | 使途 | 金額 (百万円) |
| 役務 | 業務改革(第2期)の 推進支援業務 | 7 | | | |
| 計 | | 7 | 計 | | 0 |

支出先上位10者リスト

B.(B-1~10) 研究開発事業

| | 支出先 | 業務概要 | 支出額 (百万円) | 入札者数 | 落札率 |
|----|------------------|--|--------------|----------------|-----|
| 1 | マリンサポート(株) | 海底資源探査用の遠隔操作型無人探査機を大水深の深海の高圧力環境下で効率的に運用するための高性能浮力材の製作を実施する | 138 | 随意契約 事前確認公募 | — |
| 2 | (独)日本原子力研究開発機構 | 独立行政法人日本原子力研究開発機構が所有するむつ事務所根根浜港の港湾施設の使用 | 60 | 随意契約 | — |
| 3 | 三興通商(株) | 太平洋、インド洋、南大洋に投入して観測を行う自動昇降型中層フロートを購入する | 50 | 3 | ※ |
| 4 | (株)エス・イー・エイ | イリジウム送信機が搭載された溶存酸素・水温・塩分・圧力を観測する自動昇降型中層フロートを購入する | 40 | 2 | ※ |
| 5 | 日本電気(株) | 全球から都市スケールまでシミュレーション可能なプログラムコードへ新たな力学・物理過程の導入、高速化を支援する業務 | 37 | 1 | ※ |
| 6 | ハルトゾク・ジャパン(株) | 高電圧電気ハルスを岩石試料に照射することで電気力学的に岩石を粉砕する装置 selFragLabを購入する | 35 | 不落随契 | — |
| 7 | 住友電気工業(株) | 資源探査用の遠隔操作型無人探査機が大水深の深海から大容量のデータを送信するための既存の光伝送装置の追加・改造を実施する | 29 | 随意契約 事前確認公募 | — |
| 8 | (株)東陽テクニカ | 資源探査用自律型無人探査機に搭載する海底地形探査用ソナーの購入を実施する | 29 | 1 | ※ |
| 9 | (株)エヌ エル シー | タービン駆動コアリングシステムを構成する各部の性能確認試験、コアリング試験及び泥水循環試験等を実施する | 28 | 不落随契 | — |
| 10 | エヌケーケーシームレス鋼管(株) | 大深度用高強度ドリルパイプの管体とツールジョイントの圧接部の強度向上や、腐食環境下での疲労強度の検討を行い、ドリルパイプの性能強化を行う | 26 | 随意契約 | — |

C.(C-1~10) 運用・展開事業

| | 支出先 | 業務概要 | 支出額 (百万円) | 入札者数 | 落札率 |
|----|-----------------|--|--------------|----------------|-----|
| 1 | 日本マントル・クエスト(株) | 海洋研究開発機構が策定する年次運行計画に基づき「ちきゅう」を安全かつ効率的に運用する | 1,808 | 随意契約 | — |
| 2 | (株)マリン・ワーク・ジャパン | 船舶を用いた調査・研究において、高品質データを提供するため、海洋観測・分析装置の運用、管理、データの品質管理・公開に至る一連の支援業務を実施する | 1,338 | 随意契約 事前確認公募 | — |
| 3 | 東京電力(株) | 横浜研究所で使用する電気 | 540 | 1 | ※ |
| 4 | 川崎重工業(株) | 津波により脱落し、破損した「ちきゅう」のアジマススラストを購入する | 367 | 随意契約 | — |
| 5 | 三井造船(株) | 海底資源探査用の遠隔操作型無人探査機(ROV)の建造を実施する | 295 | 1 | ※ |
| 6 | (株)マリン・ワーク・ジャパン | 「ちきゅう」船上における研究機器の運用、保守及び高知コア研究所におけるコア試料等の処理、分析、管理等を実施する | 295 | 随意契約 | — |
| 7 | 三菱重工業(株) | 津波によって損傷を受けた個所の修復工事及び年次検査工事を行う | 157 | 随意契約 | — |
| 8 | 東京海上日動火災保険(株) | 「ちきゅう」に付保している船舶保険の保険期間満了に伴いこれを更新する | 143 | 随意契約 | — |
| 9 | 日本海洋事業(株) | 海流影響評価に必要な掘削海域の海流実測データ取得を目的とした中層係留系を購入する | 123 | 1 | ※ |
| 10 | 川崎重工業(株) | 津波により失った4Pアジマススラスト・プラットフォーム部の新規製作を行う | 106 | 随意契約 | — |

D.(D-1~10) 法人共通

| | 支出先 | 業務概要 | 支出額 (百万円) | 入札者数 | 落札率 |
|----|-------------------|---|--------------|----------------|-----|
| 1 | 富士ゼロックス(株) | 業務資料の作成に使用するコピー機及び業務連絡用ファクシミリが正常動作するように点検・整備を行う。(年度当初契約分) | 43 | 1 | ※ |
| 2 | (株)ジェービーエム | 横須賀本部及び横浜研究所の環境衛生の維持及び施設の保全をするため、日常清掃、定期清掃等の業務を行う。 | 38 | 5 | ※ |
| 3 | 日本興亜損害保険(株) | 所有する建物、構築物、機械設備・装置、器具、工具什器、備品等について火災保険を付保する | 30 | 2 | ※ |
| 4 | 京浜急行バス(株) | 横須賀本部における役職員の通勤用として、本部と最寄駅間のバスを運行する。 | 26 | 随意契約 事前確認公募 | — |
| 5 | 国際警備(株) | 横須賀本部及び横浜研究所の保安管理、安全管理及び警備業務を行う。 | 25 | 3 | ※ |
| 6 | (株)イディアパートナーズ | 横須賀本部及び横浜研究所の受付、電話交換、郵便等取扱、構内放送、JAMSTECグッズ販売等の業務を行う。 | 15 | 3 | ※ |
| 7 | 富士ゼロックス(株) | 業務資料の作成に使用するコピー機及び業務連絡用ファクシミリが正常動作するように点検・整備を行う。(8月1日新規導入分) | 11 | 1 | ※ |
| 8 | 日本総合サービス(株) | 機構における公用車の運転及び管理業務を行う。 | 9 | 7 | ※ |
| 9 | (株)マイナビ | 平成25年度新規定年制職員の採用に係わる募集活動及び総合適性検査の実施に係わる支援業務 | 9 | 1 | ※ |
| 10 | (株)日本能率協会コンサルティング | 第2期中期計画に定められた業務の効率化を実現するため、専門的な知識をもって、機構の業務改革の推進支援を行う。 | 7 | 1 | ※ |

※同種の他の契約の予定価格を類推される恐れがあるため非公表としている。